

自然・環境

芦田川

1 芦田川の特徴

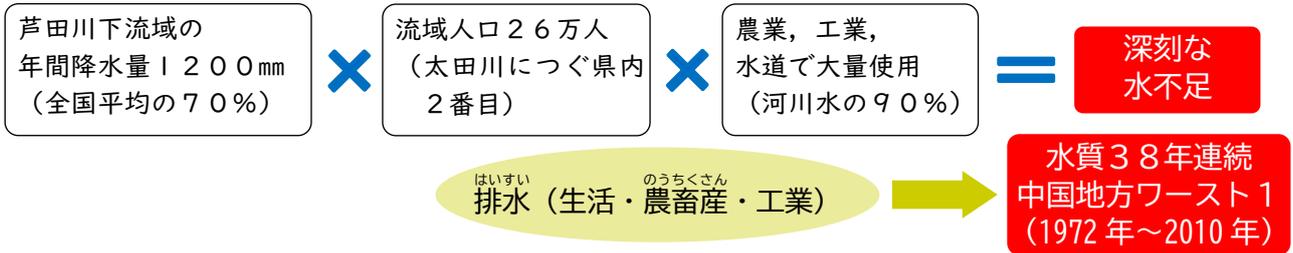
(1) 芦田川の現状

芦田川は、三原市大和町蔵宗を源流とし、世羅台地や神辺平野を下り、福山市箕島町で瀬戸内海に注ぐ、全長86kmの一级河川です。

御調川や高屋川、瀬戸川をはじめとして82の支流が芦田川に合流しています。



出典：国土交通省福山河川国道事務所



(2) 芦田川にすむ魚

芦田川には、68種類 (平成23年現在) の魚が生息しています。芦田川全体では、オイカワ、カワムツ、カマツカが多く生息しています。また、貴重な種類として、メダカ、スジシマドジョウなどの生息が確認されています。

<p>オイカワ</p>  <p>全長：約15cm えさ：水生昆虫、コケなど 特徴：下流域から上流域まで、広い範囲にいるよ。</p>	<p>カワムツ</p>  <p>全長：約15cm えさ：水生昆虫、コケなど 特徴：下流域から上流域まで、広い範囲にいるよ。</p>
<p>カマツカ</p>  <p>全長：約25cm えさ：水生昆虫など 特徴：川底が砂の所にいるよ。普段は砂の中に潜ってじっとしているよ。</p>	<p>メダカ</p>  <p>全長：約4cm えさ：プランクトン、水生昆虫など 特徴：水田や小川に多いけれど、大きな川の流れの緩やかな所にもいるよ。</p>

出典：国土交通省福山河川国道事務所

2 芦田川と福山市

(1) 芦田川と人々のつながり

芦田川を利用して生活していた人々のくらしを紹介しましょう。

『日本国現報善悪靈異記』という本には、「府中に住む人が、お正月に必要な食べ物などを買うために、船に乗って芦田川を下り、深津で開かれている市に出かけた。」



定期的に市が開かれていた「深津」には、お金の両替ができる「銀行」のようなどころもあったそうだよ。市のある日には、たくさんの人が集まったんだろうね。

ことが記されています。この『日本国現報善悪靈異記』という本が書かれたのは、今からおよそ1200年前です。飛行機や鉄道、自動車のない時代、大量の物資を運ぶときには船がよく使われていました。そのため、海に面した港には多くの食べ物や貴重な物が集まり、港を中心とした町はとても栄えていました。

芦田川は、港に集まった物を運んだり、港に買い物に來たりするための「道」となっていたのです。今の「高速道路」と言えるかもしれません。

ふるさと豆知識

地名から分かる昔の様子

地名に使われている漢字から、その場所の昔の様子が分かる場合があります。「深津」「奈良津」など、「津」のつく地名は、昔、港町として栄えた場所が多くあります。今では、海からはなれた場所も、海の近くの港だったようです。

では、「丘」のつく地名はどんな場所だったのでしょうか。

(2) 芦田川の洪水

福山市の工業、農業、人々のくらしを支え続けてきた芦田川。しかし、時として、川は大きな自然の力で、人々のくらしを壊してしまうこともあります。テレビのニュースなどで、大雨による川の氾濫、洪水など見たことのある人もいるでしょう。

芦田川の恵みを受けるために、福山の人々は、どのような努力や工夫をしてきたのでしょうか。

広島県立歴史博物館学芸員のお話

芦田川は、もともと洪水が多い川ではありませんでした。人々は、芦田川に寄り添うようにくらし、恵みを受けていたのです。しかし、技術の発達とともに、芦田川をより便利に活用できるように、川の流れを変えたりせきとめたりするようになりました。それにより、芦田川の洪水の被害が大きくなったとも言われています。

芦田川の洪水の被害と、芦田川の整備工事も、芦田川と福山の人々のつながりと言えるでしょう。

主な芦田川の整備と水害の歴史

○福山の町への洪水の被害を防ぐために、川を福山城から遠ざけて流す工事を行う。	1616年	
○福山の人々が、芦田川の水を生活に使えるように、上水道を整備する。	1622年	
	1641年	●大規模な土砂災害
	1673年	●大規模な洪水災害
	1919年	●大規模な洪水災害
		・死者 23人
		・壊れたり流されたりした家 271戸
		・水が入ってきた家 4215戸
○芦田川大工事が始まる。	1923年	
・川の急カーブに堤防 ^{ていぼう} を造る。	1945年	●大規模な洪水災害
・川と川を合流させて、川の幅 ^{はば} を広くする。		・壊れたり流されたりした家 2920戸
○芦田川大工事が終わる。	1961年	
○芦田川の水の量や勢いを調節し、水を利用しやすくするために、芦田川河口ぜき、八田原ダム建設を決定する。	1970年	
	1973年	●洪水災害
	1975年	●洪水災害
○芦田川河口ぜきの完成	1976年	
	1985年	●洪水災害
○八田原ダムの完成	1998年	●洪水災害
○新しく芦田川の整備の計画を立てる。	2004年	
	2018年	●大規模な洪水被害（観測史上1位となる記録的大雨）

川の整備の計画や工事には、長い年月がかかります。その間にも、人々は、大雨による洪水の被害などに苦しみました。しかし、決してあきらめることなく、今でも芦田川の整備の計画は続けられているのです。

そこには、福山市民の生活を支える芦田川への感謝の心が現れていると言えます。

3 環境改善の取組 ～ 芦田川の環境を改善するために ～

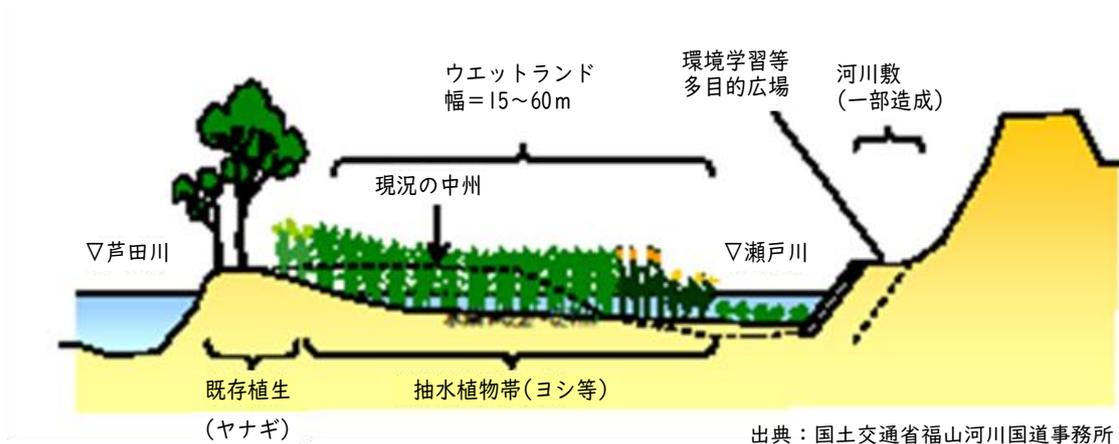
芦田川の水質改善に向けては、公共下水道の整備や浄化槽^{じょうかそう}の普及促進^{ふきゅうそくしん}をはじめ、様々な取組が進められています。

(1) 芦田川ウエットランド

芦田川の下流域の水質改善のために、「芦田川ウエットランド」を整備しています。

ウエットランドには、ヨシ類の植物がたくさん植えてあります。ヨシは、川の汚^{よご}れの原因であるリンを栄養にして育つ植物で、水質を浄化する効果があります。





(2) 芦田川環境マネジメントセンターの取組

芦田川の水をきれいにする取組として、2004年(平成16年)に「芦田川環境マネジメントセンター」が設立され、2007年(平成19年)から『芦田川きれい☆きれいプロジェクト』に取り組んでいます。みなさんも、ぜひ参加してみませんか。

【芦田川きれい☆きれいプロジェクト】

① 川の健康診断

パックテストによる水質調査とともに、川のごみ・川の濁り・水の汚れ・水の手ざわり・水のおいなど、人の感覚による調査を定期的に行っています。

② 水辺の学び舎

きれいな水にすむ魚や生物など、芦田川でよく見られる種類や貴重な種類などを調査し、観察をしながら『芦田川さかなマップ』を作りました。

③ 河川浄化チャレンジ月間の取組

水の汚れが目立つ支流地域を中心に、家庭でできる水をきれいにする取組を行いました。それぞれの家庭が取り組むことで、川の水がきれいになることが分かりました。



家でできること

>>>キッチン編

いくつできているか
試してみてください。

- ①流しの三角コーナーや排水口にはネットを敷くなどして、調理くずや食べ残しを流さない。

>>>キッチン編のぬは、

- ②鍋や食器などの汚れは、紙で拭き取ってから洗う。
- ③食用油は直接流さず、紙に染み込ませたり、固めたりして捨てる。
- ④余ったお湯やワインなどは流さず、料理用に使う。
- ⑤米のとぎ汁は桶水や節桶の水やりを使う。
- ⑥料理は余分な量を作らない。調理くずが出た時は桶水や節桶水の肥料に使う。
- ⑦水道の水は出しっぱなしにしない。
- ⑧アクリルタワシを使って洗剤の使用量を減らす。

>>>お風呂編

- ⑨シャブー、リンスの使用は、ひかえめにする。

- ⑩風呂の残り湯は、洗濯や桶水・節桶の水やりを使う。

>>>お風呂編のぬは、

>>>洗濯編

- ①洗濯はまとめて洗うなどして、洗剤の使用量を減らす。
- ②流しすぎをひかえて、ためすぎにしない。

>>>洗濯編のぬは、

外出先で

- ⑬山や海、川に行ったら自分のゴミは持ち帰る。
- ⑭栄き缶、たばこの投げ捨てはしない。

>>>外出編のぬは、

>>>日頃編

- ⑮環境にやさしいエコマーク商品を購入的に使用する。
- ⑯浄化槽は定期的に点検・清掃する。
- ⑰身近な水路や川に関心をもち、積極的に清掃活動等に参加する。

>>>日頃編のぬは、

全部でいくつできているかな？
きれいな芦田川のためにみんなの一歩ずつ。

芦田川は、台所排水や洗濯排水など、日常生活から出る排水が汚れる原因の一つになっています。そこで、芦田川をきれいにするために、『環境にやさしい17のとりくみ』をまとめた『環境17条』を作りました。これは、みなさんが身近なところでできる実践活動です。地域のみなさんと協力して、きれいで輝く芦田川を取り戻すため、できることから始めましょう。

AEMC 芦田川環境マネジメントセンター

出典：芦田川環境マネジメントセンター

「芦田川環境マネジメントセンター」の具体的な取組を知りたい人は、
<http://fm777.co.jp/pc/aemc/> をみてね。



(3) 福山市芦田川漁業協同組合

福山市芦田川漁業協同組合では、ウナギやフナを養殖し、芦田川に放流する活動を続けています。芦田川の魚を絶やさないようにと始めたのがきっかけでした。毎年3月・4月頃に、河口せきで上流に上がってこれなくなったシラスウナギを1匹ずつ捕獲します。3時間かけて10匹しか捕獲できないこともあります。捕獲したシラスウナギを養殖場で大切に育て、毎年10月頃には、8000～10000匹のシラスウナギを放流します。放流には、近くの小学校の児童も参加し、芦田川の水をきれいにする、生き物を大切にするなどを学習しています。

芦田川漁業協同組合 小林組合長さんのお話

私たちが子どもの頃、学校から帰ったら、よく芦田川で遊んでいたんだよ。いろんな魚がたくさんいたんだ。友だちと魚を捕まえたり、川で泳いだりして、遊ぶ場所が「芦田川」だったんだ。「芦田川で育った。」と言っても間違いないね。だから、芦田川に対して、いい加減なことはできないんだ。自分を育ててくれた芦田川を大切にするために、漁業協同組合の仕事は、これからも一生懸命続けていきたいね。



〔シラスウナギの放流をする光小学校児童〕

4 地域の川や海を守るためにできること

私たちの生活は、芦田川によって支えられています。

芦田川は、古くから多くの生き物のすみかとなり、地域の人々の憩いの場となり、豊かな自然として、ずっとわたしたちのくらしやこの町を支えてきたのです。

その豊かな自然は、人々の手によって守られてきました。水をきれいにする取組、生き物を大切にする取組、それらに携わる人たちの願いは、「芦田川を大切にしたい。」という思いです。

しかし、その願いは一人で叶えられるものではありません。

みんなで取り組むからこそできるのです。

先人が守り大切にしてきた芦田川を、今度はわたしたちが守り、次の世代へつないでいかななくてはならないのです。私たちにできることは何でしょう。一人一人が進める一歩が、未来の大きな一歩へとつながるはずです。